

## (36) レタス

### ア 各病害虫の防除

菌核病

すそ枯病

灰色かび病

べと病

軟腐病、腐敗病、斑点細菌病

ビッグベイン病

アブラムシ類

オオタバコガ

ナモグリバエ

ネキリムシ類

ハスモンヨトウ

センチュウ類

ナメクジ類

## ア 各病害虫の防除

### 【留意事項】

(□は総合防除計画に掲載している病害虫)

### 菌核病

(予防に関する措置)

- 1 宿主植物の連作及び輪作を避ける。
- 2 苗を介したほ場への持込みを防ぐため、苗床での薬剤散布を実施する。
- 3 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 4 雨よけ栽培を行う。
- 5 施設やトンネル栽培では、低温・多湿にならないよう、換気に留意する。
- 6 マルチ栽培を行い、子のう胞子の飛散を抑制する。
- 7 施設栽培においては、紫外線除去フィルムを使用する。
- 8 夏季に灌水処理を行う。
- 9 栽培終了後は、発病株や作物残さをほ場に残さず、速やかに適切に処分する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発病株は菌核が形成される前に速やかに除去し、ほ場内に放置せず適切に処分する。
- 2 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、適期に薬剤散布等を実施する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病が予想される場合は苗灌注を行う。発病初期に薬剤を株元に施用（散布）する。

### すそ枯病

(耕種的・物理的防除)

- 1 温度・湿度を上げないようにトンネルを換気する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病が予想される場合は苗灌注を行うか、薬剤を処理する。発病初期に薬剤を株元を中心に10～14日おきに散布する。

### 灰色かび病

(予防に関する措置)

- 1 多湿条件下で発生しやすいことから、密植栽培を避け、温度・湿度を上げないようにトンネルを換気する。降雨等で地下水位が例年より高いほ場では、特に注意する。
- 2 株間の湿度低下のため、畝内や株元の除草に努める。
- 3 傷口が早く乾くよう、収穫作業は晴天が続く時に行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 病斑部は伝染源となることから、速やかに除去し、ほ場外で適切に処分する。
- 2 発生予察情報、ほ場の見回り等に基づき、適期に薬剤散布等を実施する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 多発地では散布開始時期を早くする。

### べと病

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病初期から薬剤を施用（散布）する。

### 軟腐病、腐敗病、斑点細菌病

(耕種的・物理的防除)

- 1 温度・湿度を上げないようにトンネルを換気する。

- 2 株を傷つけないように注意する。
- 3 ビニールハウスの場合は、暖房をする。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#) [【軟腐病】](#)・[【腐敗病】](#)・[【斑点細菌病】](#)

- 1 微生物殺菌剤は発病前から予防的に処理する。
- 2 発病ごく初期から薬剤を約10日おきに2～3回施用(散布)する。

## ビッグベイン病

(判断、防除に関する措置)

- 1 土壌中の糸状菌オルピディウム菌により媒介されるウイルス病である。

(耕種的・物理的防除)

- 1 抵抗性品種を用いる。
- 2 定植時期を遅らせる。

※多発ほ場では抵抗性品種と薬剤防除を併用する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発病が予想される場合は土壌消毒を行うか、薬剤を処理する。

## アブラムシ類

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 無寄生苗を使用する。
- 3 施設栽培においては、防虫ネット、紫外線除去フィルム、光反射資材によるマルチ、粘着シート等の活用により、施設内への侵入を防止する。
- 4 有翅(し)虫の飛来を防止するため、光反射資材によるマルチ若しくはシルバーテープ又は風上方向に防風垣若しくは防風ネットを設置する。

(判断、防除に関する措置)

- 1 生物農薬を活用した防除を行う。
- 2 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 生物農薬を予防的に散布する。

※天敵の放飼と薬剤散布(殺菌剤を含む)とを併用する場合は、[農薬安全使用に関する参考資料の章の「天敵等への化学農薬の影響の目安」](#)を参照し、天敵に影響の少ない農薬を選択する。

※アブラムシ類の生息密度が高まってからの放飼は十分な効果を得られない場合があるので、発生初期からの放飼が重要である。また、アブラムシの種類と天敵の組み合わせによっては、効果が認められない場合がある。

- 2 気門封鎖剤を散布する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用(散布)する。

## オオタバコガ

・[共通防除の章のオオタバコガの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 2 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆を行う。
- 3 本種に対しては、防蛾用黄色蛍光灯の夜間点灯の効果が高い。これは、ハスモンヨトウやシロイチモジヨトウなど他の夜行性の蛾にも効果がある。
- 4 交信かく乱剤を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に蒸込み処理を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等を行う。

※秋どり～年内どり作型で被害が多い。

- 2 被害株を見つけ次第、除去する。

- 3 食害や糞の近くには幼虫がいる可能性が高いので、発見に努め、見つけ次第捕殺する。
- 4 新芽や花蕾には卵や若齢幼虫が多い。摘心した側枝や蕾はほ場外に持ち出し処分する。
- 5 生物農薬を活用した防除を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。
- 7 蛹化は土中で行われる。発生の多かったほ場では、ロータリーをかけたたりほ場を冠水することで、土中の蛹を死滅させる。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。なお、中齢幼虫以降になると薬剤の防除効果が著しく低下してしまうので、早期発見、早期防除に重点を置く。

## ナモグリバエ

---

・ [共通防除の章のハモグリバエ類の防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 育苗施設では、出入口、側窓などの開口部に寒冷紗を展張する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 育苗期及び定植時に薬剤を施用（散布）する。
- 2 本ぼでは発生初期に薬剤を施用（散布）する。

## ネキリムシ類

---

・ [共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 被害株周辺の幼虫を捕殺する。

薬剤防除 [農薬登録情報](#)

- 1 [共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照し、クロルピクリンくん蒸剤で土壌消毒する。
- 2 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

## ハスモンヨトウ

---

・ [共通防除の章のハスモンヨトウの防除の項](#)を参照する。

(予防に関する措置)

- 1 施設栽培では、成虫の侵入防止対策として、換気窓等の施設開口部への防虫ネットによる被覆や防蛾(が)灯(黄色灯)の夜間点灯を行う。
- 2 ほ場内及びその周辺の雑草の防除に努める。
- 3 交信かく乱剤を活用した防除を行う。

(判断、防除に関する措置)

- 1 発生予察情報を参考に、ほ場の見回り等による早期発見に努め、発生初期に薬剤散布等を実施する。
- 2 卵塊や若齢幼虫が群生している葉を見つけ次第、除去する。
- 3 農薬を使用する場合には、同一系統の薬剤の連続使用を避け、異なる系統の薬剤によるローテーション散布を行う。さらに、地域内で薬剤抵抗性等が確認されている薬剤の使用判断については指導機関の指示に従う。
- 4 生物農薬を活用した防除を行う。
- 5 施設栽培においては、栽培終了後に密閉処理を行う。
- 6 作物残さを適切に処分する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 交信かく乱剤を活用する。
- 2 生物農薬を散布する。
- 3 若齢幼虫のうちに、薬剤を施用（散布）する。

## センチュウ類

---

・ [共通防除の章の資材・苗床・本ぼの消毒の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

※キタネグサレセンチュウはレタスへの実害は少ないが、増殖率が高いので後作作物の選定に注意する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 発生が予想される場合には、薬剤を施用（散布）する。

## ナメクジ類

---

・ [共通防除の章のナメクジ・カタツムリの防除の項](#)を参照する。

(耕種的・物理的防除)

- 1 野菜くずの捨て場等の発生源を除去する。
- 2 ほ場の通風や排水を良好にし、地表部を乾燥させる。
- 3 農作物の過繁茂を避け、収穫後の畑はできるだけ早期に整理する。
- 4 畑周辺の小かん木、小竹などの茂みを伐採整理し、不必要な石積等は取り除く。
- 5 畑周辺の清掃を図った上で、潜伏場所となるような濡れむしろ等を設置し、誘引捕殺する。

(薬剤防除) [農薬登録情報](#)

- 1 粒剤は雨が降ると有効成分が流亡してしまうので、天候を見極めて活動直前の夕刻に処理する。ハウスや温室内では、2～3日間はかん水がかからないようにする。残効期間は短い。